

映像ゼミナール2014

「他者のまなざしにさらされるニュー・ジャーマン・シネマの肉体、

R.W.ファスビンダー」

上映作品

”BAAL”(12/11)

講演: 桑田文 (上智大学 非常勤講師)

”Die 120 Tage von Bottrop”(12/12)

上映後パネルディスカッション開催

パネリスト

渋谷哲也 (東京国際大学 准教授)

オプヒュルス鹿島・ライノルト (上智大学 教授)

クリスティアン・ツェムザウアー (上智大学 講師)



R.W.ファスビンダー(1945-82)は、60年代ドイツで起こった映画運動であるニュー・ジャーマン・シネマの担い手のひとりで、映画監督としてだけでなく、舞台演出家、俳優としても活躍した、ニュー・ジャーマン・シネマを象徴する人物である。ドイツの社会問題やゲイカルチャーなどをテーマに13年間で37本の映画作品を制作し、コカインによるオーバードーズでこの世を去った。代表作は『マリア・ブラウンの結婚』(79)など。今回は、彼の出演作であるV.シュレンドルフ監督の『パール』(70)と、彼とニュー・ジャーマン・シネマという時代を追悼するC.シュリンゲンズィーフ監督の『ボートロップの120日』(97)を上映する。

17:00-20:00

Bibliothek Sophia Universität, L-821

(7-1 Kioi-cho, Chiyoda-ku, 102-8554, Tokyo)

***ohne Anmeldung**

【日時】 2014年12月11日(木)、12日(金) 17:00-20:00

【場所】 上智大学四谷キャンパス中央図書館L821

【言語】 日本語、ドイツ語 (上映作品は日本語字幕付)

【主催】 上智大学ヨーロッパ研究所

申込み不要・入場料無料

■お問合せ先: 上智大学ヨーロッパ研究所